

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「アットホームの中にも礼儀あり」を基盤として、事業所と地域の関係性強化を謳った理念を作っている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフの採用時には、ホームの理念を伝え、理解してもらえるようにしている。 ミーティングや日々の生活を通し、言葉遣いに気をつけながら理念の実現に向けて努力している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には、入所契約時に、ホームの理念について説明している。地域に向けては、広報誌などの配布と自治会等の行事を通して理念が伝わるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物などに出かけ、近隣の人達とあいさつを交わしたり、話をしている。 近所の方が立ち寄って下さり、野菜などを頂いたり、野菜の世話の仕方など教えてもらっている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の体育祭、バザー、敬老会、文化祭、公民館祭り、お祭りの盆踊り。また、自治会の清掃や避難訓練などに、積極的に参加している。		

グループホーム「和」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>実習生の受け入れを積極的に行っている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>サービス評価の意義や目的を全スタッフに伝えて、全員で自己評価に取り組んでいる。 外部評価の結果は、ミーティングで報告し、改善に向けての検討を行い、実践につなげている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では、事業所からの報告をすると共に、参加メンバーからの質問、意見、要望を受け、サービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者との交流はあまりない。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護育成研修会に参加し、スタッフ全員に伝え、権利擁護について話し合っている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修や、勉強会に参加し、ミーティングなどで伝達している。 日常生活を通し虐待行為にあたるような対応が行われていないか常に気をつけている。</p>		

グループホーム「和」

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時の説明は、時間をとって丁寧に説明している。特に、転倒などのリスク、退所の条件、様々な同意書などについての重要事項については十分な説明を行い、ご家族からの疑問や質問にも答えられるようにしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員を月に1度派遣してもらい、利用者の相談にのって頂いて、運営の参考にして頂いている。その時々利用者の不安、不満、意見などは全てのスタッフが共有化できるようにし、特定のスタッフの中に埋もれさせないようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族の来訪時や電話にて、利用者の最近の様子や、健康状態などについて報告している。広報誌やアルバムを見ていただくことで、利用者のホームでの生活の様子や表情を知ってもらっている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族に直接、意見や要望を伺ったり、運営推進会や第三者による苦情相談日を設け、苦情や要望を出していただく機会を作っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のミーティングで意見を出し合ったり、申し送り後に意見交換を行う時間を設けたりと、日頃からコミュニケーションを図るように心がけている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じて、柔軟な勤務の調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的にスタッフを固定化し、顔馴染みのスタッフによるケアとなっている。新しいスタッフが入る場合は、利用者నికిきちんと紹介し、利用者が警戒心を持たないような工夫をしている。</p>	

グループホーム「和」

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修や学習会、伝達講習には、スタッフが順番に参加している。研修報告は毎月のミーティングにて発表してもらい、研修報告書を全スタッフが閲覧できるようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に参加し、意見の交換を図っている。他事業所との相互訪問を行っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常や面談時に、スタッフのストレスや悩みを把握するように努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>定期的に健康診断を実施し、スタッフの心身の健康を保つ為の対応をしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に必ず事前面談を行ったり、可能であればホームに在所して頂いている。生活の状況や心身の状態について把握するように努め、本人の思いを理解し、できるかぎり不安なく入所できるようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族が相談に訪れた時、今までの経緯や、困っていること、不安なことについて、ゆっくりと話を聞くようにしている。ホームとして、どのような対応ができるかについても説明を行っている。</p>	

グループホーム「和」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況などを確認したうえで、今、何が必要かを家族及び本人と一緒に見出している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人や家族が事業所を見学してもらうことから始め、できる限りご本人が納得したうえで入所という形につなげるようにしている。入所後も不安なく徐々にホームに慣れて頂けるように、ご家族に電話、面会、外出などの協力を得ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で利用者の方から自然な形で教えてもらう場面作りをしている。表面的な関係ではなく、本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ることに努め、共に支え合える関係作りを心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や思い、スタッフの思いをこまめにお伝えすることで、共通認識につなげ、本人を支えていくための協力関係作りに努めている。ご家族の思いも十分に汲み取りながら行うように心がけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と本人の思いや状況を見極めながら、行事や野外活動に家族を誘い、共に過ごす機会を作っている。可能な限り、外出や外泊で、ご家族と一緒に過ごしていただいている。また、手紙のやり取りができるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人、知人、親戚の方からの電話や来訪が多い。馴染みの美容院を利用されている方もいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	みんなで楽しく過ごす時間や、気の合う者同士で過ごせる場面作りをしている。利用者同士の人間関係や相性の良し悪しを把握し、その時の心身の状態や気分、感情でも日々変化するので、注意深く見守り、利用者同士の関係が円滑になるような働きかけを心がけている。		

グループホーム「和」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、ご家族の相談に乗ったり、できる限りの対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の思いを引き出すような言葉掛けや会話を心がけている。 表情の読み取りや、表面的な言葉だけでなく、その裏にある思いや真意を汲み取れるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、ご家族や、関係者から、これまでの経過や生活歴、暮らし方などの情報を収集し、把握している。 入所後も随時ご本人やご家族、関係者から情報を収集している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの1日の生活のペースやリズム、体調を把握するように心がけている。 日々の生活の中で、「できること」「できそうなこと」を見つけ、力を発揮できるような場面作りをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしさを大切にした介護計画の作成を心がけている。 ご本人やご家族、スタッフの意見や思いを受け入れて、反映させるようにしている。 カンファレンスも随時行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間が終了する前に見直し、評価を実施し、新たなプランの作成を行っている。 ご本人の状態変化が見られる場合は、その都度介護計画を見直し、新たな計画を作成している。		

グループホーム「和」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に、日々の様子、生活の流れ、本人の言葉、エピソードなどを記録している。ケアプランの目標に沿った記録や利用者の状態変化などの特記事項も記入している。 個別記録を基に、モニタリング、ケアプランの見直し、評価を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状態に応じて、通院などの支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方の協力を得て、様々な出し物や作業を楽しむ機会を作っている。 公民館や小中学校での行事に参加させて頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	自治会型デイホームに参加できるよう心がけている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しいろいろな状況を提供、ホームに対して助言をいただいている。 お互い気軽に行き来が出来るようになり協力関係が築かれてきた。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。 基本的には、ご家族同行の受診となっているが、不可能な時には、スタッフが代行するようしており、利用契約時にその旨を説明し、同意を得ている。		

グループホーム「和」

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーやプライドが守られるよう、日々のケアの中で、周囲に分からないようなさりげないケアを心がけている。ミーティングや勉強会にて話し合い、意識向上を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の様々な場面で、利用者の方に選んでもらうことを心がけており、本人の意思を大切にしている。意思確認が困難な方に対しても、分かりやすい説明やジェスチャーなどで対応している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、特にスケジュールは作っていない。一人ひとりのその日の体調や気分に合わせて生活を送っていただいている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の好みの服を自由に着ていただいている。行事や野外活動の際、化粧をしていただくと喜ばれる。美容院は、移動美容室の利用でほとんどの方が満足されているが、希望があれば馴染みの美容院を利用できるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けなどは、利用者と共にしている。スタッフと利用者が同じテーブルを囲んで、楽しく食事ができる雰囲気作りを大切にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	行事などの特別な日にお酒を出している。お酒の好きな利用者はとて喜ばれる。コーヒー、ジュース、おやつなど、利用者一人ひとりの好みに合わせて提供している。	

グループホーム「和」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自宅や病院でオムツを使用されていた利用者に対しては、排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行うことで、オムツの依存をなくし、下着に尿パットの使用のみで対応している。トイレ誘導や汚染の後始末は、周囲に分からないようさりげなく行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む人に対しては、安心できるような言葉掛けや対応の工夫を行っている。周囲の目が気になる人には、個別にスタッフと1対1で入れるよう支援している。希望があれば、本人の望む時間帯に入らせていただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	できる限り、日中の活動を増やし、生活のリズムを整えることで、スムーズな自然入眠につなげている。日中も、その時の疲れや、希望にあわせてゆっくり休息できるように支援している。眠れない方に対しては、その原因を探り、対応を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味、得意分野を把握して、力を発揮してもらえるような場面作りをしている。個人の好みに合わせた事を行っていただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者の方は、安心感のために、自分の財布や小額の金銭を持っていただいている。買い物、ドライブなどに出かけている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気や、本人の気分、希望に合わせて、日常的に散歩や買い物、ドライブなどに出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	つぎに1～2回、野外活動として、遠くの場所に出かけている。ご家族にも参加して頂いている。個人の希望の場所へは、ご家族の協力を得て、実現できるよう支援している。		

グループホーム「和」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人の方からホームの方に自由に電話をかけて頂いてご本人と会話していただいている。 ご家族との手紙の支援を行っている。 希望のある方は、ご家族に電話をかけて頂いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は特に定めておらず、自由に来訪いただいている。 来訪時は、利用者の方と一緒にくつろいでいただける様に配慮し、お茶などもだしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	物理的な身体拘束は行っていない。 言葉による強制や拘束についても、研修や勉強会にて意識を高め、その日のケアについて毎日振り返っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、開放している。 利用者の行動をスタッフがさりげなく見守り、出て行く気配を見落とさないように連携プレーを図っている。 一人ひとりの気分や状態に合わせて、外出などで気分転換を図っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは、利用者と同じ空間で、記録などの事務作業を行いながら、さりげなく全員の居場所と、状態を確認している。 夜間は、こまめに利用者の様子を確認するとともに、起きられたらすぐに対応できるように、居室が見通せる位置にて待機している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所用品や文房具など日常生活に必要な物品を自然な形で設置している。 裁縫道具や爪切り、内服薬などは、利用者の目の届かない場所に片付けている。 使用したものは必ず数を確認し、安全確保に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予測されるリスクに対し、事故を未然に防ぐための工夫を、誤嚥のリスクが高い方に対しては、食べやすくカットしたりと、食事内容を工夫している。日々のヒヤリハットを記録。事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因や今後の対策について話し合い、家族への説明、報告を行っている。		

グループホーム「和」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、年に1回の救急救命講習をホーム内で実施し、全スタッフが対応できるようにしている。緊急時対応についてマニュアルを作成している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている。自治会の避難訓練に利用者の方と参加している。運営推進会議や自治会で地域の協力をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所前に、圧迫感のない自由な暮らしを送って頂くために、日中施設を行っていないことをご家族に説明し、理解を得ている。転倒の危険性について、入所前に十分に説明し、ケアプランの作成の際にも、ご家族に説明、理解を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタルチェック以外でも、状態の変化が見られたときは、その都度測定を行い、記録している。異常があるときは、迅速に、管理者、ご家族に報告し、医療受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の処方箋はケース毎にとじ、全スタッフが内容を把握できるように、記録し伝達している。処方箋のコピーを用意し、スタッフが目を通して確認している。状態変化が見られるときは、詳しく記録し、主治医に相談している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜、果物、繊維質の多い食材や乳製品などを取り入れ、栄養バランスに気をつけている。十分な水分が摂取できるようにしている。日常生活の中で、無理のない運動を取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、できる限り自分で磨いていただいている。就寝前は、義歯の洗浄を行っている。定期的に歯科往診があり、歯科衛生士から助言を受けている。		

グループホーム「和」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎日チェック表に記録し、スタッフが情報を共有している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事務所内で起こり得る感染症について、細かくマニュアルを作成し、全スタッフが、予防、対策に努めている。利用者、スタッフとも、全員インフルエンザの予防接種を受けている。普段からこまめに、手洗い、うがい、消毒を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾などは、使用毎に漂白し、清潔を心がけている。冷蔵庫の中を毎日点検し、鮮度や状態を確認、古い物は処分している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に観葉植物や手芸作品を置いている。建物周囲には、花や野菜のプランターを設置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物は、その時の季節に合った物にしている。季節の花を生けたり、展示物や置物もその時の季節に合わせている。台所からは、いつも調理の音や匂いがしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下、スペースのある場所には、ベンチや椅子、ソファを設置し、利用者の方が一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげる様に工夫している。		

グループホーム「和」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや鏡台など、ご本人の馴染みの物を使って頂いている。 カーテンやカーペットはご本人の好みの色や柄の物を使用している。 家族の写真やアルバムも置いている。 自分で作った手芸用品などを飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	晴れた日は、必ず居室、トイレ、フロアの窓を開けて換気を行っている。 冷蔵庫は、利用者の状態に合わせて、個別に、こまめな温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下、階段には、手すりを取り付け、安全面に配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室のドアに分かりやすく、個別にネームを取り付けている。 (名前の表示に対しては、ご本人、ご家族に了承を得ている) トイレの場所が自然に分かるように、目印を付けている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇やプランターに季節の花や野菜を植えて、利用者の方に、水やりや草取りなどの世話をしている。 ベランダに物干し竿を設置し、日常的に利用者の方に洗濯物を干して頂いている。 玄関先のベンチで、涼んだり、日向ぼっこができるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム「和」

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)